

甲子園から見た教育論 大人に感動を与える若者を育てる

「教育が元気をなくしたらこの国は救われない」 弁護士 清水 幹裕 氏

清水氏は、昭和41年から甲子園や六大学の審判をしてきた方です。甲子園は1日千円の日当のみだが、どうしてもやめられなかった。それは、名監督、名選手に出会えるから。私は、彼らの生き方に感銘を受け続けた。そんなお話を聞きましたので、以下に紹介します。

〔立派な指導者とは〕

- 審判を信頼している。明るく潔い。スパッとしている。
 - その姿が、自然に、選手にも大きな影響を与えている。
- 悪いことを叱れる。締めるところを締める。度量が大きい。
 - 選手の自主性を尊重、、、なんてのは選手へ妥協・迎合、指導力の無さの誤魔化し。
- 明治大学 島岡式人間力野球
 - 言っていることと、やっていることが全く同じ。凄い人。
- 知識や経験では解決できない
 - 仕事に対する知識や経験で解決できる部分は、社員75%、社長25%程度。

〔名選手とは〕

- 上達できる選手 ①失敗を素直に認めることができる。自分の未熟を素直に認める。
 - 上達しない選手は、必ず言い訳をする。
言い訳上手な子ほど愛に飢えている(常に怒鳴られている)。
- ②よく練習する。自分は練習すれば絶対にうまくなると信じている。
- 松井の父「努力できるということが才能である」

〔未来志向の文化への疑問〕

- 日経、高校生の意識調査

	日 本	ア メ リ カ	中 国
自分はだめな人間だと思ふことがある	73%	48%	37%
計画通りやれる	38%	86%	74%
誇りに思えることが無い	53%	24%	23%

〔失敗の大切さ〕

- 審判をやっている自分が精神的に強くなれたと思う。
 - 人前で目茶苦茶に恥をかいだ。観客の罵声を浴びる経験。失敗の連続。
 - ⇒ そこから立ち直ろうとする力、気持ち。
- 失敗した人、恥をかいだ人、負けた人の心の痛みが分かる。
- 人間の本当の価値は「人の心の痛みが分かる」こと。
- 100点取れる力のある子が、80点で褒められ続けると、傲慢な子になる。

〔批判は常にある〕

- 他人からの批判は、自分ではどうしようもできない。クヨクヨしないこと。
 - 精神的に強くなるしかない。
 - 審判(教員)が戦う相手：①自分との戦い ②選手との戦い ③観客との戦い
- 自分にとって面白くない場面、不愉快な状況は
 - 自分を鍛える絶好のチャンスである。

〔真剣さが感動を呼ぶ〕自分を褒められる人生 〔愛情が謙虚さを呼ぶ〕自分に誇り